

普及活動情勢報告（平成 29 年 2 月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

目指せ！若手生産者の技術向上 ～ミョウガ基本技術勉強会の開催～



ミョウガ勉強会

J A土佐くろしおミョウガ部会に対し、概ね就農 5 年未満の後継者を対象にした基本技術の勉強会を 1 月 30 日に開催し、生産者 15 名の参加がありました。

ミョウガとは？から始まり、栽培の難しさや地下茎の様子などの栽培技術について情報提供し、その後、意見交換を行いました。参加者からは種根茎の選別や育苗についての質問があり、活発な勉強会となりました。

農業改良普及課では、今後も継続して開催し、ミョウガ後継者の育成支援をしていきます。

農家が生産した安全・安心な農産物を鮮度高く消費者へ提供する体制を確認

～ J A土佐くろしお大間集出荷場のGAPを実施～



出荷場GAP実施中

2 月 3 日、J A土佐くろしお大間集出荷場において、同 J Aと農業改良普及課合同で集出荷場GAPの点検を実施しました。今回から園芸連の集出荷場版GAPに統一することにしたため、普及課が事前に点検シート（案）を作成し、点検開始前に J A担当者と項目や評価基準を協議したうえ、出荷場内をチェックしていきました。いずれのチェック項目にも問題はなく、農家が生産した安全・安心な農産物を消費者へ鮮度高く提供する体制が構築されていることが確認できました。

今後とも定期的の実施するとともに、対象集出荷場を拡大していく予定です。

インゲンの安定生産に向けて ～現地検討会の開催～



リモニカスカブリダニを確認する農家と営農指導員

1 月 25 日、J A土佐くろしおインゲン部会を対象に現地検討会を開催し、15 名が参加しました。

農業改良普及課は、現在のハウス内環境データ、炭酸ガス施用試験の途中経過報告や、I P M技術について説明を行いました。またリモニカスカブリダニを導入したほ場を見てもらい理解を深めました。参加農家からは、「厳寒期に炭酸ガスで収量が上がり所得の向上になればいい」、「カブリダニが小さい」「天敵を用いて作業労力が減った」などの声が聞かれ、農家同士の意見交換も始まっています。

農業改良普及課は、今後も J Aと連携して、部会への情報提供や技術の検討を行い増収に向けて支援していきます。

任意組織の会計処理について学び ～集落営農塾ステップアップ編開催～



集落営農塾ステップアップ編

2月3日、須崎農業振興センター管内の集落営農組織を対象に集落営農塾ステップアップ編を開催し6組織9名が参加しました。

農業改良普及課は、高知県の集落営農組織の状況、集落営農支援事業について説明し、任意組織の会計処理について研修しました。

意見交換では「作業で一部の人に負担が多くかかっている。」「自分たちの世代が助け合って何とかするしかない。」など意見が出され、他の組織の活動に耳を傾けていました。

農業改良普及課では、今後も集落営農組織同士が交流できる場を設けるとともに、集落営農組織が地域の担い手となるよう支援していきます。

法人組織の総会支援 ～（農）大野見野の風総会開催～



（農）大野見野の風の総会

2月15日、（農）大野見野の風総会が開催されました。法人となって初めての総会開催に向けて、農業改良普及課では決算処理の方法や従事分量配当の考え方等支援していきました。

役員が、今期の活動内容、次年度の設備投資や従事分量配当についての説明を行い、農業改良普及課は総会資料の書き方等について助言を行いました。法人となって初めての総会でしたが、次期に向けてWCSに取り組む等の総意を得ました。

農業改良普及課では、今後も（農）大野見野の風を取組や経営内容について助言、支援をしていきます。

新たな取組を目指して ～ささば営農組合総会開催～



ささば営農組合総会

2月17日、中土佐町のささば営農組合の総会が開催され、今年度の受託内容、もち米の販売結果や次年度は「もうける農業経営」を目指し、米の販売価格アップのための取組を行うことが確認されました。組合員からは、「決算書の考え方について教えて欲しい」という意見が出され、農業改良普及課として一緒に整理していくこととなりました。

今後も、農業改良普及課では、決算内容の確認や「もうける農業経営」を目指し組織の活動を支援していきます。